

指導資料

 鹿児島県総合教育センター

英語 第62号

—高等学校、盲・聾・養護学校対象—
平成18年5月発行

英語の「聞く力」の育成を目指した指導の工夫

中学校英語科の学習指導においては、音声によるコミュニケーション能力の育成に重点が置かれている。高等学校では、オーラル・コミュニケーションⅠ・Ⅱの科目が設けられ、平成18年度からは、大学入試センター試験にリスニングテストが導入されるなど「聞くこと」の指導が重視される状況にある。また、英語の習得に関する先行研究によると、「聞く力」が「話す」、「読む」、「書く」という他の技能の習得において好影響を及ぼすと言われている。

これらのことから、今後、「聞くこと」にかかわる指導の一層の充実が求められる。

そこで、本稿では複数の調査等を基に、「聞くこと」にかかわる学習指導の現状をとらえ、「聞く力」の育成を目指した指導の工夫について、高等学校の事例を通して述べる。

1 調査結果に見られる「聞くこと」の現状

まず、以下の調査や学力検査の結果を概観し、そこから中学校における生徒の「聞く力」をとらえることにする。

- (1) 平成16年度鹿児島県中学校「基礎・基本」定着度調査（以下「定着度調査」という。）〔鹿児島県教育委員会実施〕
- (2) 平成17年度鹿児島県公立高等学校入学者選抜学力検査（以下「学力検査」という。）〔鹿児島県教育委員会実施〕
- (3) 平成15年度中学校教育課程実施状況調査（以下「実施状況調査」という。）〔国立教育政策研究所実施〕

(1) 「定着度調査」の結果から

「聞くこと」の領域の定着状況をみる設問が1，2学年とも12問ずつ出題され、領域全体の通過率は、それぞれ63.8%，71.0%であった。ところが、多肢選択式の「応答問題」や与えられた絵の内容と一致する英文を選ぶ「詳細理解問題」では、通過率が30%にも及ばない設問も見られた。

● Let's play baseball. (以下のア～エは選択肢)
 ア Thank you. イ Yes, it is.
 ウ We are students. エ That's good. (正解)
 (第1学年「応答問題」, 通過率27.5%)

● Can I use your pen?
 ア Sure. (正解) イ Oh, did you?
 ウ Yes, I can. エ It's my pen.
 (第2学年「応答問題」, 通過率28.9%)

(2) 「学力検査」結果から

「聞き取りテスト」全体の正答率は、71%（問題数10，配点24点）であった。しかし、応答として「承諾する」ときに用いる基本的な表現を選択させる設問については、56%の正答率にとどまった。

A: What are you doing here? I think you have a lot of homework.
 B: Father, I've just finished my homework.
 A: ア That's too bad.
 イ Then you can go out now. (正解)
 ウ Yes, please.
 エ You must start your homework.

また、長めの対話の内容に関する正誤問題(正答率39.9%)や、対話を聞いてそれに続く言葉を記述させる問題(57.8%)においても正答率が低かった。

(3) 「実施状況調査」結果から

国立教育政策研究所(以下「国研」という。)は、全国の中学校第1～3学年を対象に抽出調査を行い、その結果、次の内容の定着が十分でないと指摘した。

- 所有代名詞や否定文で応えること、文形式ではなく内容に応じて応える問題、申し出や依頼に対する応答など
- 前置詞の意味や後置修飾の意味のとらえ方、不定詞の理解、多くの情報を整理して理解すること

また、国研は、平成14年度、「英語Ⅰ」を履修した高校生を対象として教育課程実施状況調査を実施し、その結果、次の内容の定着が十分ではないと指摘している。(下線は筆者による)

- 話し掛けの内容や意図をとらえて適切に応答する力が十分ではない。
例：Can I use your dictionary? が依頼、また Why don't we take a walk in the park? が勧誘の意図で使用されていることが理解できていない。

以上の調査等から、中学校段階の「聞くこと」については、応答する力をはじめとして課題があることが分かった。

これらのことを踏まえ、中学校と高等学校で系統的に英語指導を進めている観点から、「聞くこと」については、次のような指導を行うことが求められる。

- ア 音声の短縮や語と語の連結による音変化について教える。(例：Who is → Who's や Take it easy.)
- イ 前置詞や不定詞の意味、後置修飾については具体的な異なる場面の中で、意味の違いを理解させながら活動を通して聞き取ることができるようにする。(前置詞の例：across, during, since, through, withoutなどはいずれも中学校基本語100語)
- ウ 応答問題については、
 - ① 文形式ではなく、意味をとらえた上で応答させる(例：Do you have a watch? という問い掛け

- に対して、Yes や No で答えたり、場面や状況によっては、Well, it's about noon. など相手の意向をくんで時刻を教えたりすることができる。
- ② 一つの質問に対するいくつかの答え方をあることを教える。
- ③ 依頼や申し出などの応答表現の習熟を図るために、授業中にこれらの表現を用いる機会や場面を意図的に作る。

2 高等学校における「聞くこと」の指導の改善

(1) 「聞くこと」の指導における留意点

「聞くこと」の指導を行う際、次のことに留意する必要がある。

学知 習心 心理 学 の ・知 認見	○ 動機付け ○ 処理の深さ ○ 維持リハーサル と精緻化リハーサル ○ 分散学習 ○ 記憶容量	○ Top-down と Bottom-up の情報処理 ○ 情報処理容量 ○ 報酬と強化 ○ KR情報
第 二英 言語 教 習育 得学 研の 究知 ・見	○ 十分な量のインプットを与えること ○ 理解可能なインプットであること ○ 興味・関心・ニーズに配慮すること ○ 自然な音声素材を活用すること ○ 知らない間に繰り返し聞ける学習ステップを踏むこと ○ 理解のレベルを配慮すること ○ 学習内容の高い定着を図ること ○ 応用力への高い転移を目指すこと	

(『千葉大学教育学部研究紀要』第53巻を基に作成)

(2) 「聞くこと」の指導の工夫

ア インプットの量を増やすこと

平成17年度に、文部科学省が行った「英語教育改善実施状況調査」によると、高校生が英語の授業でどの程度の分量の英語を聞いているか(インプット)については、表のとおりである。

表 英語の授業における英語の使用状況

	中学校	高等学校 ※2	
	平均 ※1	OC I	英語 I
教師が、大半又は半分以上は英語を用いている	35%	55%	9%
英語を用いることはあるが半分又はそれ以下(未満)である	65%	45%	91%